



Goal of Bonsai is create something refined but also natural.

盆栽の到達点というのは
緻密でありながら自然な何かを創ること

自分の言葉で淀みなく話していたビヨン・ピヨホルム氏。
日々盆栽に向き合い、考えているからこそ伝わるものがある。
写真は根張りについて英語で説明しているところ。

いて「美しい」との意見も出たが、やはり「高齢者」というイメージがほとんどのようだ。「しかし海外では若年層に人気がありブームとなっている」と氏は伝え、自らが盆栽と関わるようになった経緯を述べた。

盆栽にかける熱意

ピヨホルム氏はアメリカ・テネシー州の出身。13歳の時に盆栽に興味を持ち始め、誕生日プレゼントには盆栽を買ってもらったという。それから盆栽に夢中になり、盆栽の本を毎日持ち歩いて中学校に通った。盆栽に対する情熱はその後も衰えることなく、16歳の時に交換留学で日本に2週間滞在した際、ホストファミリーに連れられ藤川光華園を訪れる。この時、いざれ日本に戻って盆栽園に弟子入りすることを決め、テネシー大学入学後は日本語を専攻し、偶然にも今回授業を行なった立命館大学に一年間交換留学をした。そして大学卒業後2008年に藤川光華園に弟子入りし、現在は後輩の指導にもあたっている。

盆栽についての説明も端的で分かりやすかった。「鉢に入った樹」という大きな説明から「小さく作る」樹「三次元的」「一点の正面」「手はかけるが自然な姿を目指す」といった特徴が出される。管理についても同様で、日ごと、樹種ごと、樹の個体ごとに手入れや水やりが異なる点も説明され、手間暇がかかることやバランスの大切さなどが伝えられた。また、盆栽を英



盆栽講義レポート

盆栽が英語で語られるとき、若者はどんな思いを抱くのだろうか

英語を通して知る盆栽

取材協力／太田貴大（立命館大学政策科学部助教）
ビヨン・ピヨホルム（藤川光華園）



語で紹介する動画や、真柏の葉透かしを行なう動画が流されたのも印象的だった。盆栽や棚場の様子が様々なアングルから撮影されカット割りで構成されているせいも、教材というよりもショートムービーを見ているような感覚だ。学生も見入っている様子だった。

好きな仕事をつとめる

プレゼンテーション終了後の質疑応答では非常に興味深いやりとりがいくつも見られた。太田助教からも「日本の若い人が盆栽を始める上でハードルとなるものは何だと思えますか」という質問が飛び、「「クール」というイメージがないのかもしれない」と答える場面があった。「盆栽に向き合う時はどんな気持ちか」という学生からの質問に対しては「Bonsai is my passion. (直訳: 盆栽は私の情熱です)。」と切り出し、「なぜこの仕事をするのかと考える必要があるかどうかは分かりませんが、ただ好きなのです。日本に留学したい人達から盆栽園での修業は厳しいのではと聞かれますが、園は国際盆栽学校も兼ねているので世界中から生徒が来ており、彼らに教えたり盆栽について話したりする日々が非常に刺激的で楽しいです」と語った。

盆栽は単なる趣味ではなく、癒しやアートといったさまざまな側面を持つ。海外に興味がある若者にとっては「外国で人気がある日本文化」という側面に関心を抱きやすいのかも知れない。

世界に広がる日本文化

昨年の12月に「和食 日本人の伝統的な食文化」を無形文化遺産へ登録することが決定し、訪日外国人旅行者数が過去最高で1千万人を超えたという。最近では、日本の若者よりも日本通の外国人の方が日本文化について詳しいという話も聞く。国際化の現在、外国人が日本について話すのを聞くときや彼らから日本文化について意見を求められたとき、日常では意識する機会のない「日本」について考えさせられる。平成25年12月3日、立命館大学衣笠キャンパス（京都府）で行なわれた英語の講義で、藤川光華園（大阪府）のビヨン・ピヨホルム氏が盆栽についての授業を行なった。この授業を担当する立命館大学政策科学部の太田貴大助教によると「日本文化の背景を持っていない人が日本文化を英語でどう伝えているのかを知ってもらう」ため、全15回の授業のうち数回は学外から講師を招いているという。事前に「日本文化でどんな話が聞きたいか」というアンケートを生徒に実施したところ、禅やお茶、祭りなどの中に盆栽も挙がったため、伝手を頼ってピヨホルム氏に講師の依頼をした。

授業はプレゼンテーションソフトを用いて行なわれ、「盆栽という言葉を知って何が浮かびますか」という質問から始まった。学生からはまず「おじいさん」という答えが返ってくる。続

最後に、授業後に書かれた学生のアンケート（一部）とピヨホルム氏の授業後の言葉を記して結びとする。

- ・「盆栽は老人の趣味」という感覚に変化が起きた。
- ・外国で人気があるということに驚いた。日本人は日本文化をもっと知るべきだと思った。
- ・画面に出て来る盆栽を見て、少しだけではあるが魅力が分かった気がした。
- ・盆栽は奥が深いと思った。
- ・樹を見ることでリラックスできた。
- ・盆栽を育てるのにたくさんの作業があるなんて知らなかった。
- ・私たちの文化に誇りを持つべきだと思う。チャンスがあれば積極的に日本文化について学びたい。
- ・一度は盆栽に触れてみたい。

ピヨホルム氏より

私自身、「世界中の若い人たちに盆栽を知らせたい」という目標を持っているので、今回の授業をとっても楽しみにしていました。実際に生徒からの質問はなかなか鋭く、授業後も動画の内容について質問を受けるなど、かなり盆栽に興味を示してくれたようです。海外の盆栽ファンから「日本の若者は盆栽に興味がないので、もう日本では盆栽は廃れるだろう」と言われることもありますが、今回の授業を通して、海外でも日本でも盆栽は長く続くと感じました。

（文責／編集部）